



## いつも隣に ～切れ目のない子育て支援を目指して～

子育て応援倶楽部いずみん  
部長 日野 桃子

『子育て応援倶楽部 いずみん』の名前には小さい子ども読めるひらがな、“倶楽部”とちょっと昭和の香りがする漢字を使うことで、幅広い年代の人々につながり、子育てをしていけたらいいなという思いが込められています。

私の子育てが始まったのが2008年、初めて「いずみん」の設立に携わったのが2011年。私の子育ては「いずみん」と共にあると言っても過言ではありません。

「いずみん」の前身は泉区主催の地域子育て交流会という名のものでした。そこに集まった人々が、様々な変化と成長をしながらその歩みのなかで、〈つながる〉〈つながり続ける〉をテーマにこの11年活動をしてきました。

設立前は、支援したい人と支援されたい人それぞれが、区役所へ情報やつながりを持ちたいと頼ってきている状態でした。その需要と供給のマッチングがもっとスムーズにできないものか？と仙台市泉区家庭健康課を事務局として、自分の意思で集まってきたというより一同に“集められた”のが「いずみん」の始まりです。ただ、いざ一堂に会してみると、こんなに需要と供給が互いにあるのか！！と驚いたのを覚えています。

主な活動として、年に数回の所属団体同士の内部交流会、そして、年に一度の『おやこフェスティバル』があります。支援する側もされる側も、お互いを知り、繋がることで、切れ目のない子育て支援をしていこうと奮闘していました。

しかし、コロナ禍になり直接会うことや集まることができず、活動も縮小せざるを得ない状況になりました。「いずみん」は沢山の団体、個人の集まりで、それぞれに本来の役割を持っています。「いずみん」の活動がそれを邪魔してはいけない、ただ、10年近くかけて築いた絆、つながりが途絶えてはいけないと、この2年は代表を含めた三役と事務局とで細々と活動をしてきました。

子育て支援活動をする私も、普段は母親です。双子の子どもたちは今年の春から中学2年生となり“小さな子ども”は卒業したものの、今もまさしく私は、日々子育てに奮闘中!!です。子どもたちが2歳半の時に震災、小学校最後の年からコロナの流行…。どんなことがあっても子育てはどんな時も続くのだ、ということをしみじみ感じています。

日々、学校の先生方や地域の方、行政の方々のお世話になっており、そんな中で思うのは、やはり子育ては一人ではできないということ。SNSの発達で大人も子どもも手の中に収まる『スマホ』を駆使し、広いつながりを持つ時代です。それでも私は、少しの不便さや煩わしさを持って直接対面し、その目で、耳で感じた温もりを通して子育てをしたいと思っています。コロナ禍にあり、それもなかなか難しい時代ですが、個人の力でそれが叶わなくとも、こんな時こそ行政や地域等大きな力をうまく稼働させ、新しい形を模索し、より良い環境ができあがればいいですね。

コロナ禍も三年目となり、with コロナを考えなければいけない時期に差し掛かっています。新しいことにもチャレンジしながら、これからも、細く長く切れ目のない支援を続けていきたいと思っています。

